

アンケート結果から見える多文化共生の最前線  
静岡県多文化共生基礎調査2016の詳細分析報告会

2017.10.24  
於：静岡県教育会館

# 外国人の就労状況に関する分析

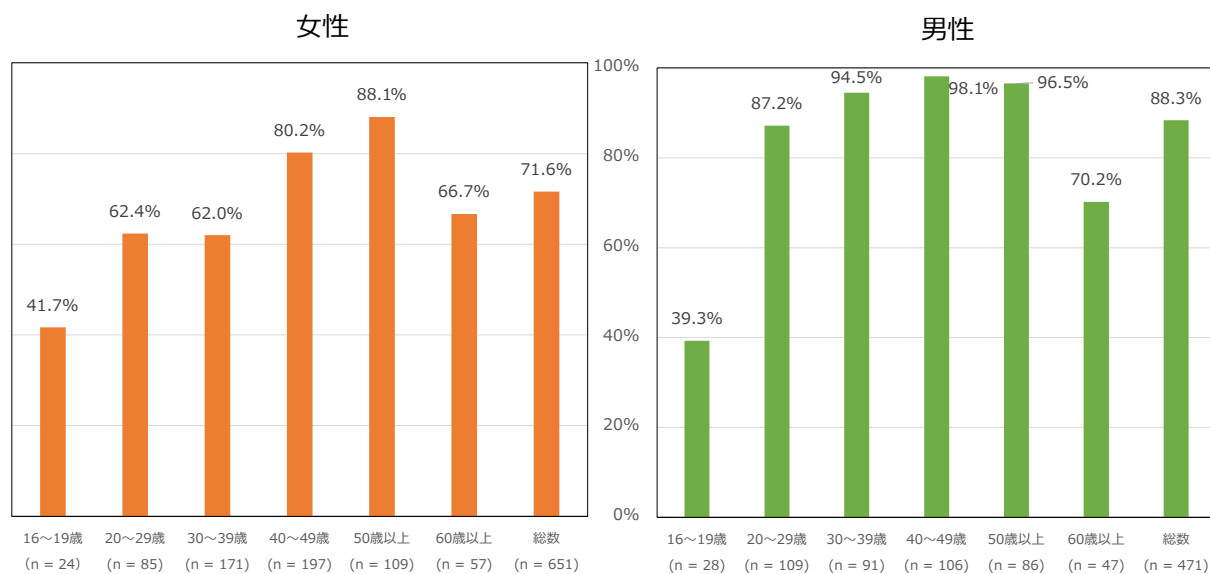
中川 雅貴

(国立社会保障・人口問題研究所)

## アウトライン

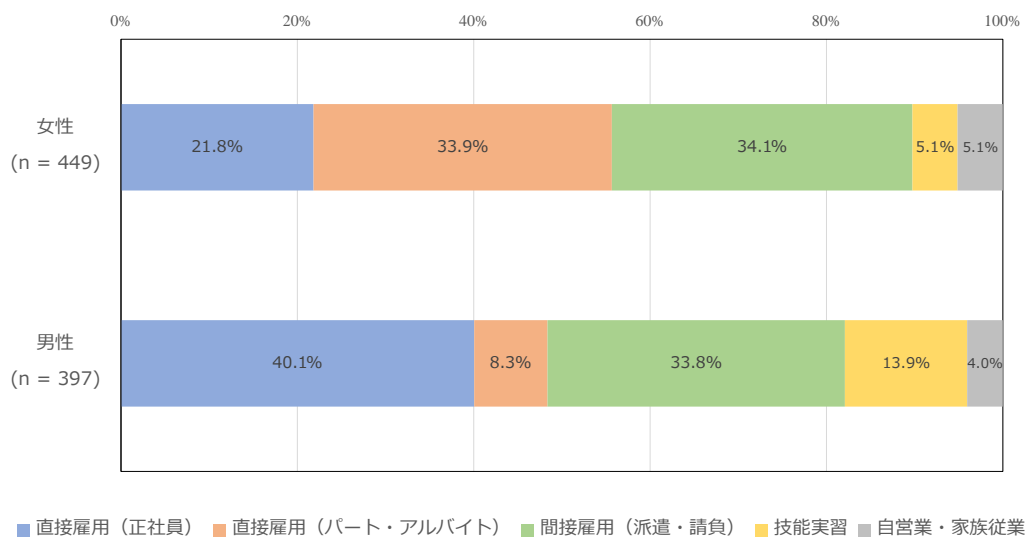
- 静岡県内における外国人人口の多様化をふまえて、その就労状況の実態を国籍別に把握する。
- 就労状況の変化の傾向（とくに安定した雇用への移行）と、その関連要因（特徴）について把握する。
- 外国人の就労状況からみた行政ニーズを探る。

## 現在、仕事に就いている人の割合（男女、年齢別）



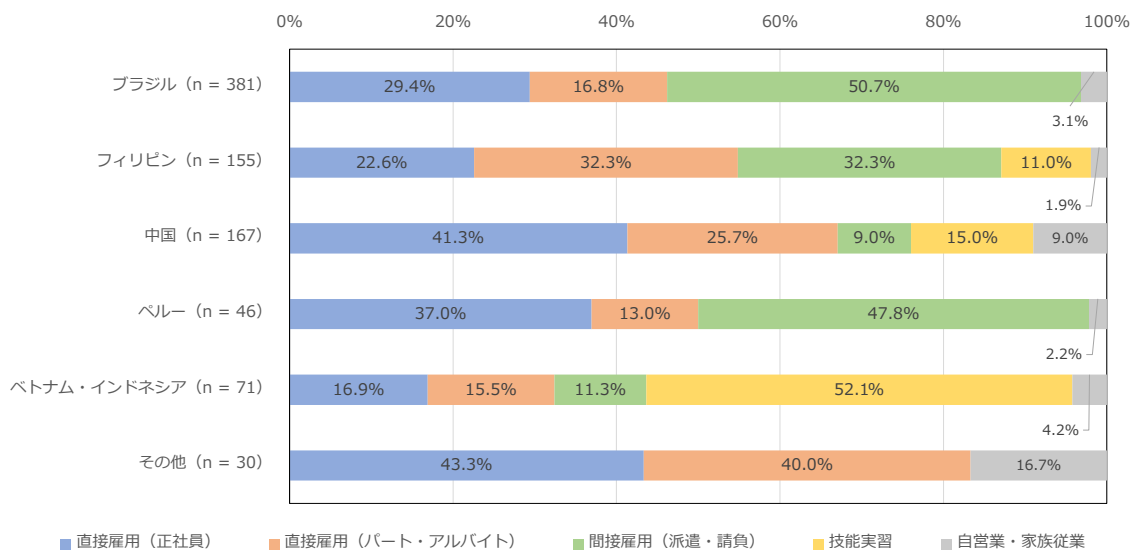
現在の就業状態不詳を除く。総数は年齢不詳を含む

## 現在の仕事の雇用形態（16～64歳，男女別）



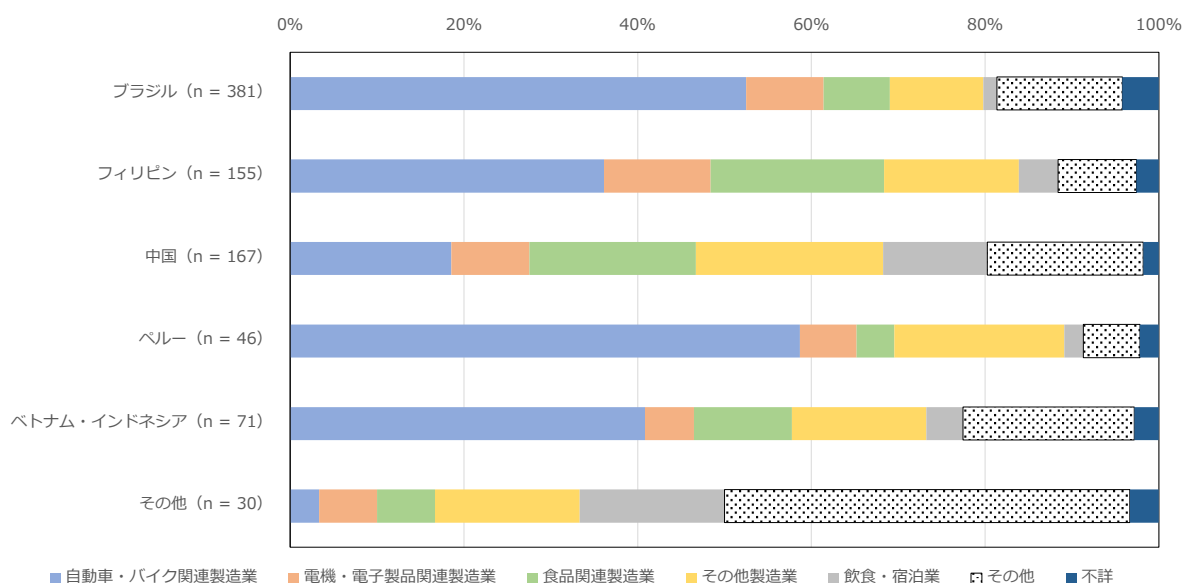
※現在仕事に就いていない人および就業状態不詳を除く。

## 現在の仕事の雇用形態（16～64歳，国籍別）



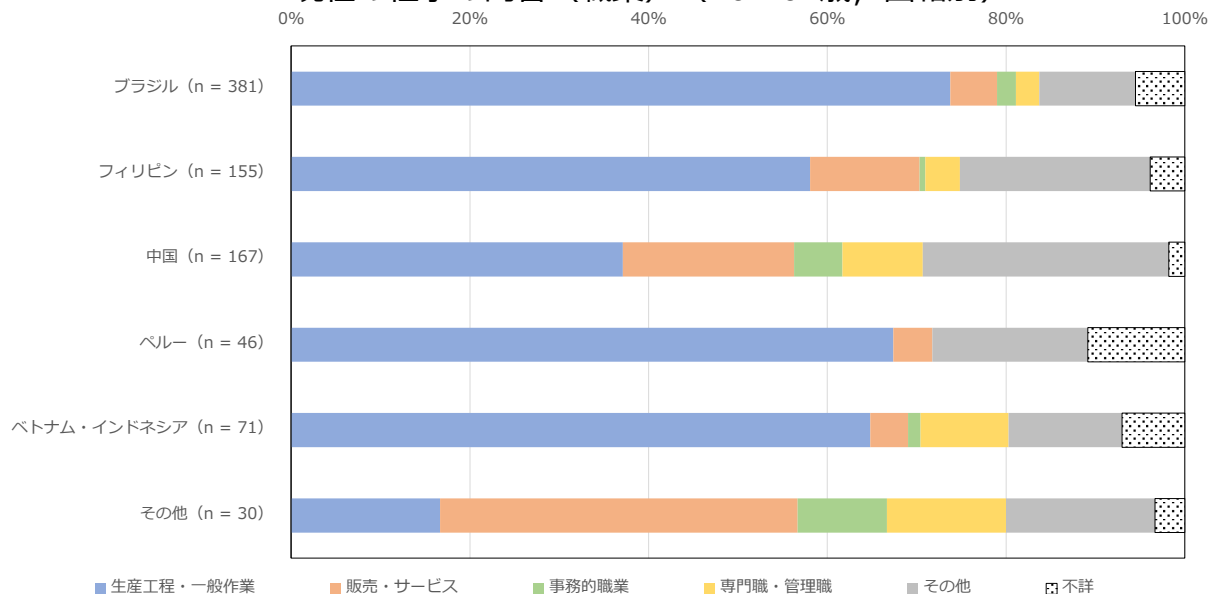
※現在仕事に就いていない人および就業状態不詳を除く。国籍「その他」には国籍不詳を含む。

## 現在の仕事の分野（16～64歳，国籍別）



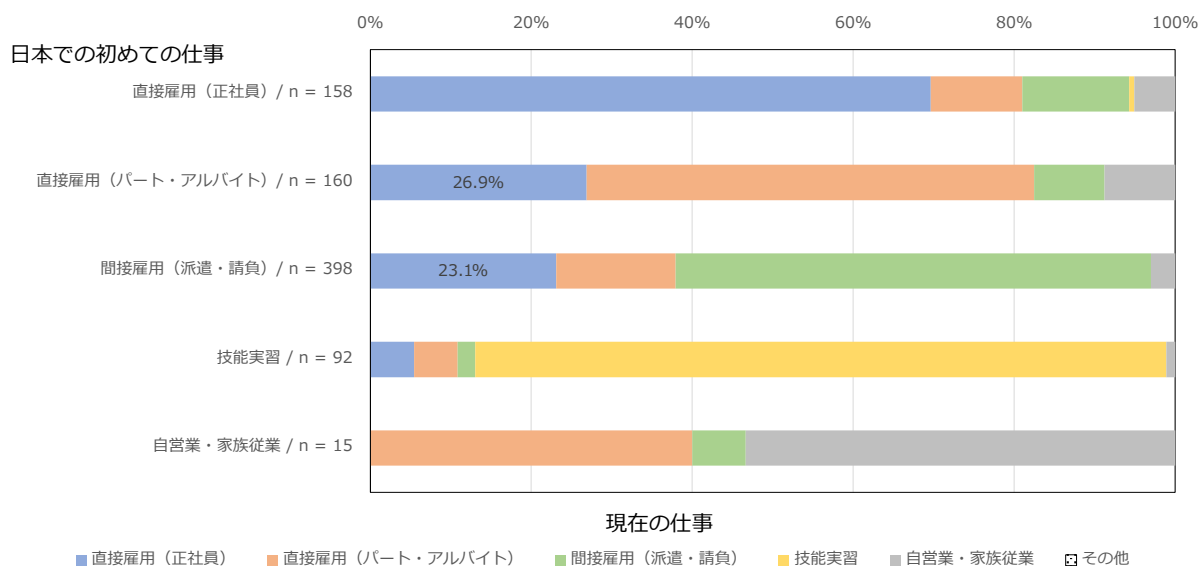
※現在仕事に就いていない人および就業状態不詳を除く。国籍「その他」には国籍不詳を含む。

## 現在の仕事の内容（職業）（16～64歳，国籍別）



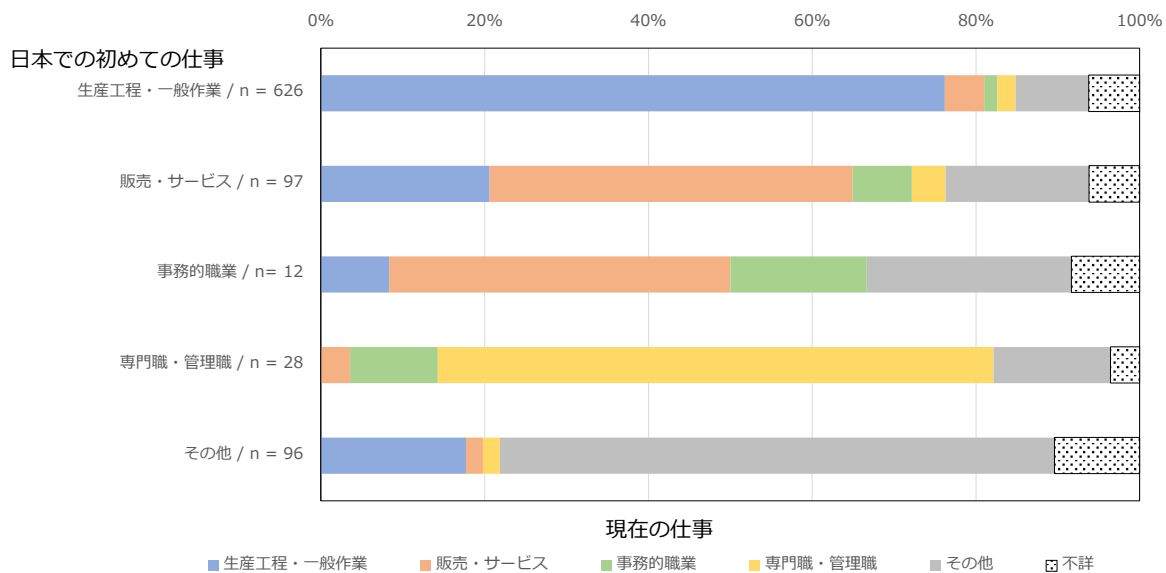
※現在仕事に就いていない人および就業状態不詳を除く。国籍「その他」には国籍不詳を含む。

## 日本での初めての仕事と現在の仕事の比較：雇用形態



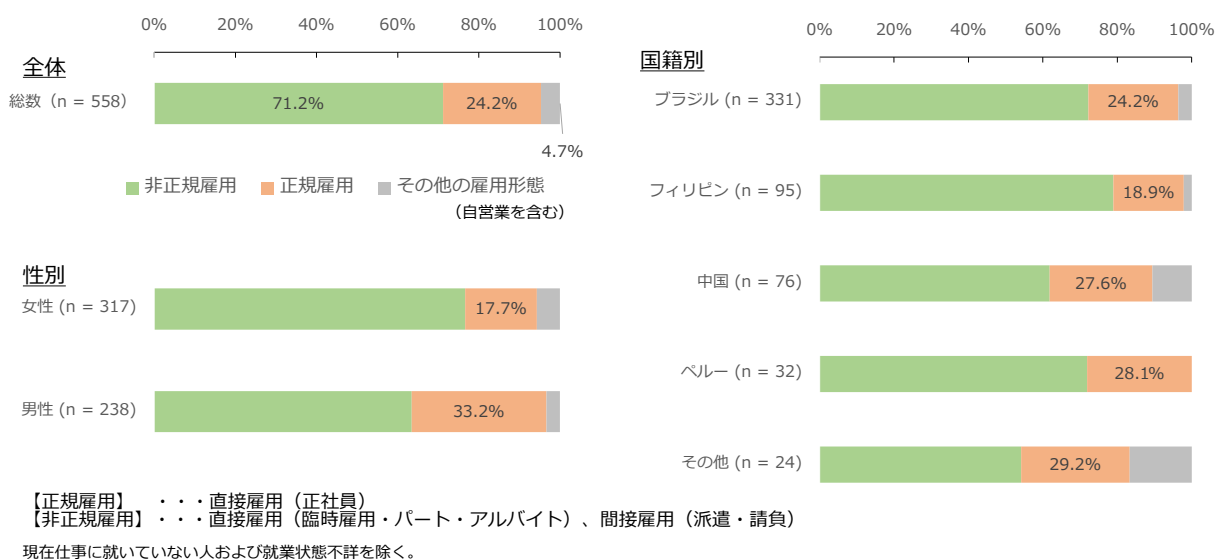
※現在仕事に就いていない人および就業状態不詳を除く。

## 日本での初めての仕事と現在の仕事の比較：仕事の内容（職業）



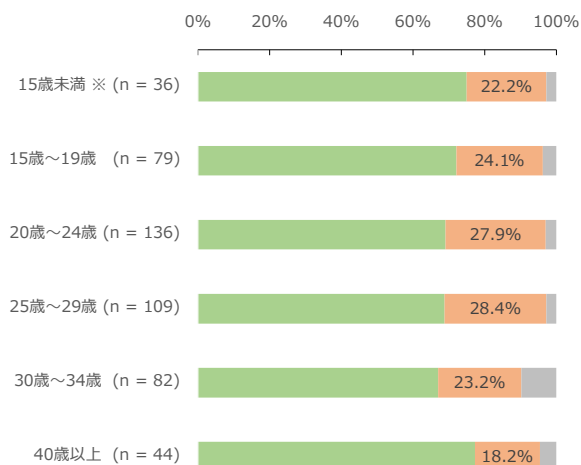
## 日本での初職が非正規雇用であった人の現在の雇用形態

～基本属性別～

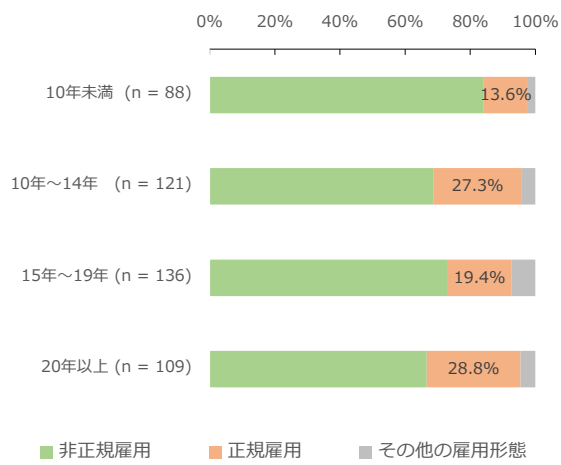


## 日本での初職が非正規雇用であった人の現在の雇用形態

### 初来日時の年齢別



### 日本での滞在年数別

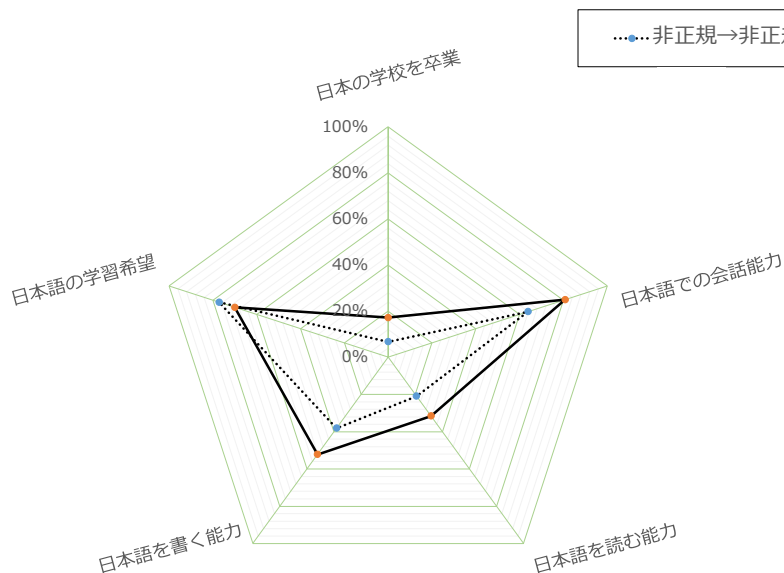


■ 非正規雇用 ■ 正規雇用 ■ その他の雇用形態 (自営業を含む)

現在仕事に就いていない人および就業状態不詳を除く。

※来日時の年齢15歳未満には「日本で生まれた人」を含む。  
来日時の年齢は、現在の年齢と「初来日年」をもとに算出。

## 非正規雇用から正規雇用に移行した人と非正規雇用に残っている人の比較①



### 日本語での会話能力 (%)

「買い物をするときに自分の希望や条件を詳しく説明できる」あるいは「公共施設や病院で通訳なしでも問題なく意思疎通できる」と回答した人の割合

### 日本語を読む能力 (%)

「ひらがななしで公共施設や学校からの通知を読んで理解できる」あるいは「公共施設や病院で通訳なしでも問題なく意思疎通できる」と回答した人の割合

### 日本語を書く能力 (%)

「仕事の伝言メモや公的書類等をひらがなやカタカナで書くことができる」あるいは「仕事の伝言メモや公的書類等を漢字を含めて書くことができる」と回答した人の割合

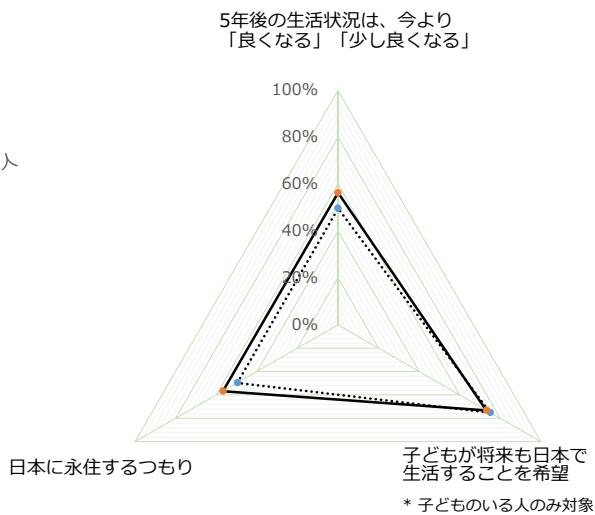
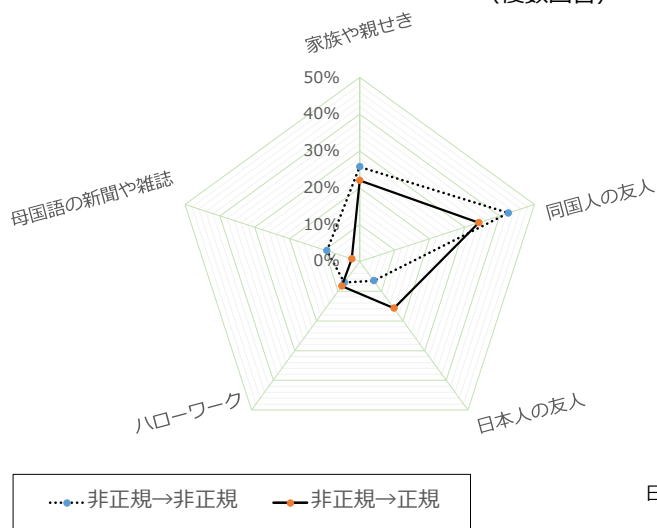
### 日本語を書く能力 (%)

「ぜひ学習したい」あるいは「自分の都合に合う機会があればぜひ学習したい」と回答した人の割合

### 非正規雇用から正規雇用に移行した人と非正規雇用に残っている人の比較②

「現在の仕事に関する情報をどのように得ましたか？」  
(複数回答)

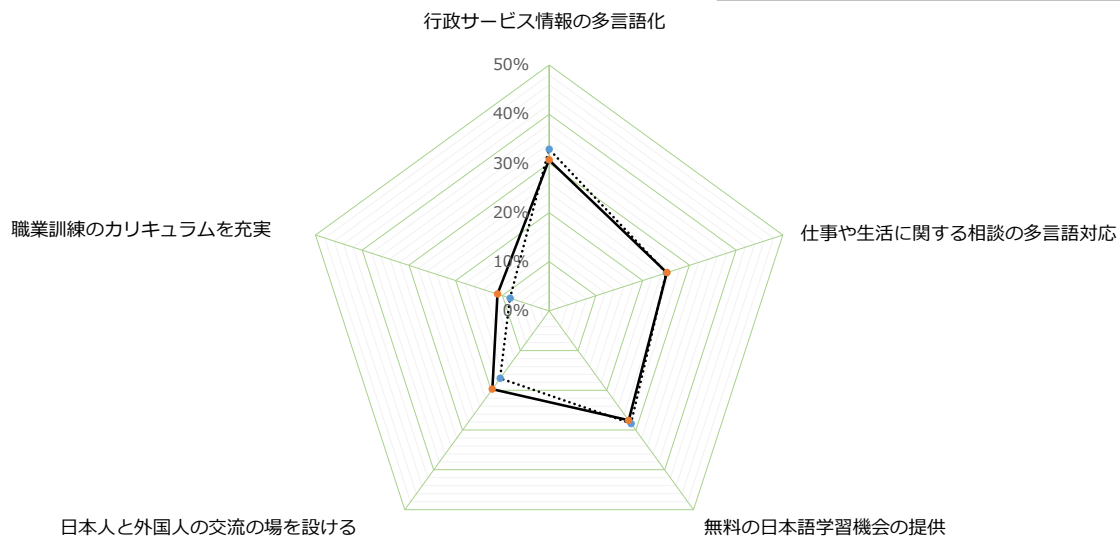
日本での生活・定住に関する意識



### 非正規雇用から正規雇用に移行した人と非正規雇用に残っている人の比較③

行政に望むこと

...非正規→非正規    —非正規→正規



## まとめ

- 就労状況の変化は、産業分野・職業間の移動というよりは、おもに「製造業・生産工程」での雇用形態の変化（「正社員化」）による。
- 定住化が進んでいる外国人のあいだで、一部、安定的な雇用への移行がみられる（とくに男性）。日本での生活・定住（永住）に関する意識と関連。
- 女性では、子育て世代の就業者割合が低くなっている。今後、こうした女性が（再び）就業機会を求めることが予想される。

⇒ 就労支援ニーズの多様化

- 就労状況の改善のための語学・職業訓練

⇒ サービスの提供に加えて、その重要性についての認識を促進する。